愛努民族的生活

アイヌ民族のくらし
The Livelihood of Ainu

文・圖 | 北原次郎太 Mokottunas
（北海道大學愛努・先住民研究中心副教授）

譯者 | 陳由瑋（政治大學民族學系博士生）

文責・図 | 北原次郎太 Mokottunas
（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）

訳者 | 陳由瑋（政治大学民族学学科博士生）

2013年迄今產官學合作舉辦的irankarapte活動標誌。設計概念結合了愛努語與愛努紋樣。以愛努語的您好打造北海道的當地特色。（圖片來源:「イランカラッテ」キャンペーン推進協議 http://www.irankarapte.com/）

2013年から始まった「イランカラッテ」キャンペーンのロゴマーク。アイヌ語とアイヌ文様を組み合わせたデザインを使用し、アイヌ語の「こんにちは」で北海道の特色を押し出している。（出典：「イランカラプテ」キャンペーン推進協議会 http://www.irankarapte.com/）

アイヌ民族の社会形態や生活は、時代によって様々に変遷しており、一様に述べることはできない。ここでは19世紀～20世紀初頭の記録に見られる社会と生活文化を紹介する。。

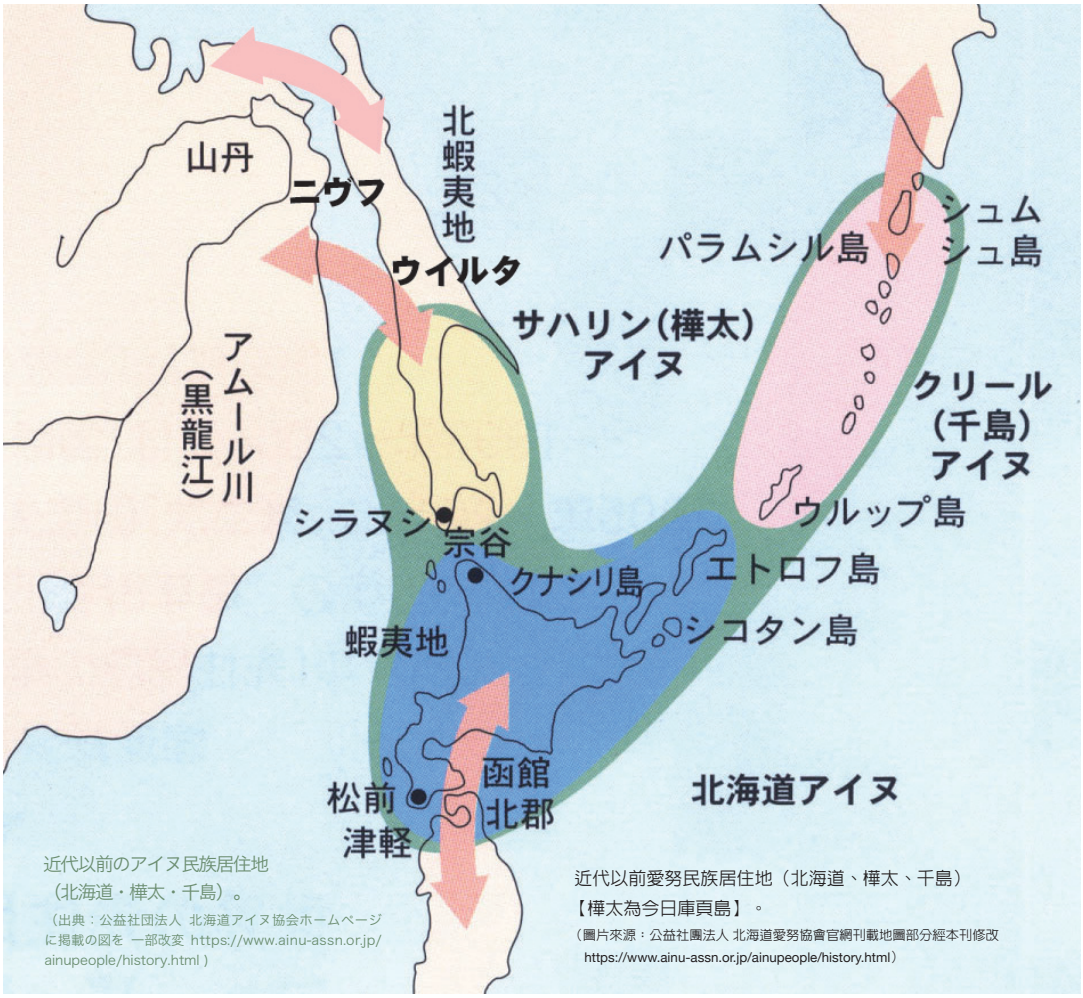
集落の立地と季節移動

集落は河川や海浜の近くに位置することが多い。河川は生活用水を確保するほか、漁労や水運とも深く結びつく生活の基盤であり、地域や集落の名も河の名にちなむことが多い。例えば石狩、天塩、十勝、釧路といった、今日も用いられている行政単位の名称は、いずれも河の名が元になっている。この

愛努民族的社會型態或生活，會隨著時代改變而有不同的變遷，所以無法一概論之。在此向讀者介紹從19世紀~20世紀初期紀錄中所看見的愛努民族的社會與生活文化。

聚落的座落與季節移動

聚落多半位在河川或海濱附近。河川除了可以確保生活用水之外，也與生活基礎的漁撈活動或水運有密切關聯，所以地區或聚落名稱經常與河川名稱有所關連。例如，石狩、天塩、十勝、釧路這些至今仍作為行政單位名稱的地名，原本也都是河川名稱。沿著這些水系，愛努民族形成地域集團，並習慣以iskar un

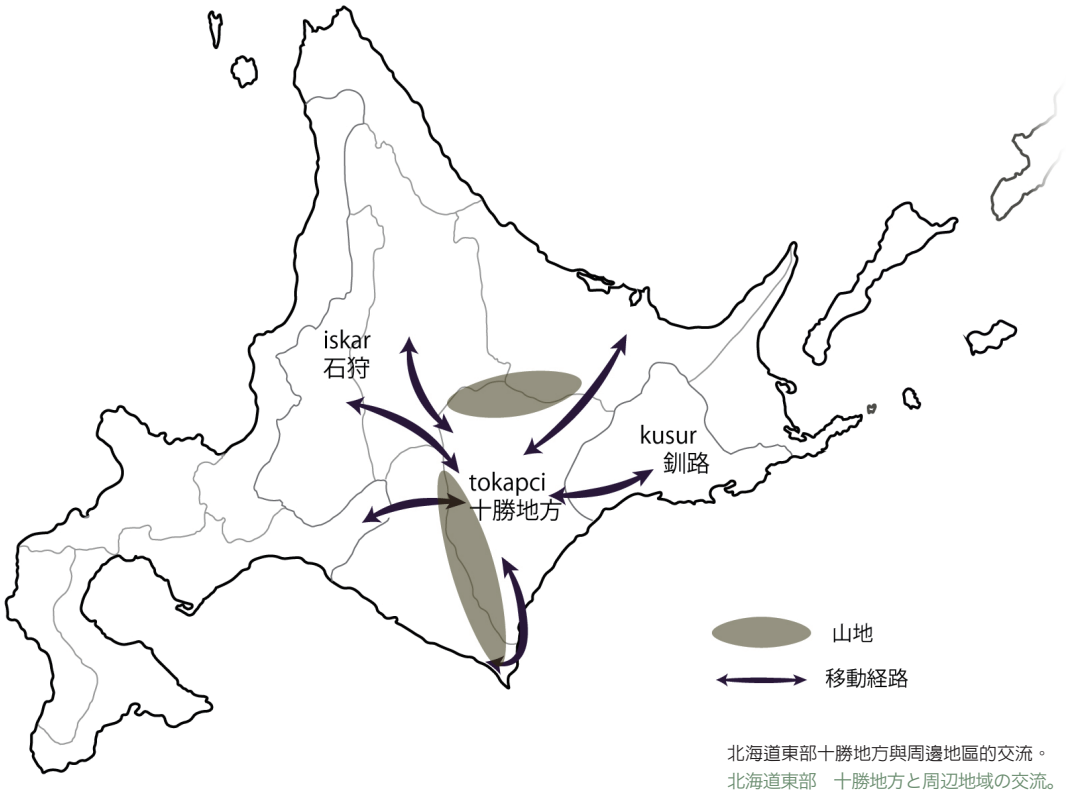


近代以前のアイヌ民族居住地（北海道・樺太・千島）。
（出典：公益社団法人 北海道アイヌ協会ホームページに掲載の図を 一部改変 https://www.ainu-assn.or.jp/ainupeople/history.html）

近代以前愛努民族居住地（北海道、樺太、千島）【樺太為今日庫頁島】。
（圖片來源：公益社團法人 北海道愛努協會官網刊載地圖部分經本刊修改 https://www.ainu-assn.or.jp/ainupeople/history.html）

水系に沿って地域集団が形成され、iskar un kur（石狩の住人）、kusur un kur（釧路の住人）などと相互に呼びならわしてきた。といっても、必ずしも排他的な関係にあるわけではなく、地域を越えた移動や婚姻、移住は日常的に行われてきた。各家系の伝承にも、他地域からの移住を語る内容がしばしばみられる。例えば北海道東部十勝地方では、2つの山

kur（石狩的住民）、kusur un kur（釧路的住民）（譯者註：愛努語kur是人的意思）等名稱來稱呼彼此。雖說如此，彼此之間存在的未必一定是種排他性的關係，日常生活也會有跨地區的移動或婚姻、移居。我們常常可從各家系口傳的敘述內容中，看到該家族原本是從其他地區搬遷而來的。比方說，北海道東部十勝地方口傳則有述說著跨過兩個山脈，北部、西



北海道東部十勝地方與周邊地區的交流。
北海道東部　十勝地方と周辺地域の交流。

脈をこえて北部・西部の地方と相互に転出・流入が繰り返され、東北部のオホーツク海沿岸域とも往来があったことが語られている。

樺太のグループも交易などのために北海道へ渡り、日本海沿岸を経て和人の居住地まで航行した。千島列島はエトロフ島とウルップ島の間に境界があり、これより南は北海道のグループの出漁域であった。樺太にも千島にもより小さな地域集団は存在するが、アイヌ社会全体がゆるやかにつながりを持ってきたと言える。

部地方有出現彼此重複遷出、流入的情況，並與東北部的鄂霍克次海沿岸區域有所往來。

樺太的愛努集團，也會因交易等活動渡海來到北海道，經過日本海沿岸後，航行到和人（大和民族）的居住地。千島列島，於Iturup島（澤捉島）與Urup島（得撫島）之間設有境界，此界以南曾為北海道愛努集團的捕魚區域。無論是樺太或是千島都存在著規模較小的地域集團，但愛努族社會全體來說是以較為鬆散的形式來連結彼此。

北海道では、江戸期には定住的な集落が営まれてきたと言われるが、夏冬の気温差は大きく、積雪や河海の結氷は移動その他の生活にも大きく影響し、季節による生活の変化や、厳冬期の短期的移住が見られた。地名にsak（夏）やmata（冬）を冠するものが見られるのも、その名残である。樺太では1930年代まで冬季の半地下式住居が一部で使用されていた。

社会

集落は親族を中心とした数軒単位のものが多く、それが同一河川流域に点在した。各集落は男性の首長が取りまとめる。伝承の中には女性の首長も見られるが、実在の首長は基本的に男性である。首長は、その集落の創設に貢献のあった家系等から選出されることが多い。江戸期にはこれとは別に、和人社会と結びついた者が首長となり、勢力を持つこともあった。

アイヌ社会は男系と女系が独立した双系社会だとされる。男性も女性も、同性の親族から財産や家系のシンボル（男性は祭具に刻む印、女性は護符となる紐）を受け継ぎ、たとえ夫婦であってもそれぞれの財産に対する所有権は侵害されない。婚姻は異なる系統の者同士で行われるように種々の配慮がされる。したがって、嫁ぎ先の同性親族とは、家族であっても異なる系統に属することになる。

在北海道，聚落雖然被認為從江戶時期以來一直都是維持定居的形式，但因夏冬的氣溫差大，積雪或河海的結冰也對移動與其他生活造成相當大的影響，並可看到生活變化受到季節影響或是嚴冬時期有短期性移居的情況。從地名冠上愛努語sak（夏天）或mata（冬天）這點來看，也可發現上述季節變化所留下的痕跡。樺太則到1930年代為止仍有部分使用冬季的半地下屋式住居。

社會

聚落，多以親族為中心，由數個家屋單位構成，並且散布於同一河川流域。各個聚落由男性首長整合凝聚。雖然在民間傳承中也有看到女性首長，但實際存在的首長基本上為男性。首長，從對建設聚落有功的家系等中選出者居多。江戶時代則出現不同情況，與和人社會有連接者，當上首長，進而掌控勢力。

愛努族社會，分為男系與女系等兩系分別獨立的雙系社會。無論男性或女性，都會繼承其同性親族的財產或家系的象徵（男性為刻在祭器上的標誌，女性則是當作護身符的織帶），即使是夫妻也不會侵害各自的財產所有權。婚姻是由不同系統的雙方共同進行，故會衍生出各種顧慮。因此女方與婆家中的同性親族雖然彼此同為家人，但所歸屬（娘家）系統其實有所差異。

生業

海浜に暮らす人々は海漁の比重が大きく、内陸では狩猟の割合が大きいなど地域ごとの傾向はあるが、どの地域でも狩猟、漁労、採集を組み合わせた複合的な生業スタイルをとる。これに加え北海道では農耕も行われてきた。

男女の分業が明確で、狩猟や漁労は男性が、採集と農耕は女性が担うと言われるが、必要に応じて協業する。

採集や農耕は春から秋にかけて盛んに行われる。採集の対象は主として植物性資源で、食糧のほか、衣服や日用品の素材といっ

生計

住在海濱的愛努族出海捕魚的情況較多，居住內陸則是狩獵占的比例較大。生計經營因地域差異會有上述的趨勢，但無論任何地域的生計活動都是由狩獵、漁撈、採集所組合的複合形式。另外，在北海道則一直都有進行農耕活動。

雖說男女分工明確，男性負責狩獵或漁撈，女性負責採集與農耕，但因應必要時男女仍會共同作業。

採集或農耕，盛行於春天到秋天。採集對象，主要為植物性資源，除了食糧外，也會取得衣服或日常用品素材等生活材料。舉例來

樺太アイヌの樹皮衣（北大植物園蔵　№88　1879年収集）
「2005年度科学研究費助成事業「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」（代表小谷凱宣）」

樺太愛努族的樹皮衣（北海道大學植物園典藏 №88　1879年收藏）
圖片來源：「2005年度科 研究費助成事業「北海道內的主要愛努族資料之再檢討」（代表小谷凱宣）」

樺太アイヌの魚皮衣（北大植物園蔵　№79）
「2005年度科学研究費助成事業「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」（代表小谷凱宣）」

樺太愛努族的魚皮衣（北海道大學植物園典藏 №79）
圖片來源：「2005年度科 研究費助成事業「北海道內的主要愛努族資料之再檢討」（代表小谷凱宣）」

た生活資材を入手する。一例として樹皮を上げれば、カバやマツの皮は、曲げて柄杓や籠、船を作る。樺太や北海道東部では、家の屋根や壁にも樹皮を用いる。また、樹木の内皮を細く裂いて糸を作り、織機で布にしたattus（樹皮衣）もその一例である。attusは自家消費ばかりでなく、和人漁業労働者も購入して着用し、土産物として本州に持ち帰られた物が、歌舞伎の衣装にも取り入れられた。

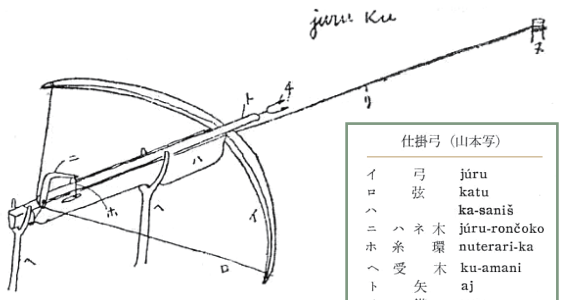
漁労では、沖漁のほか沿岸での漁を行い、河川に遡上する魚も盛んに獲った。魚肉は、加工や調理の仕方によって様々な触感や風味を楽しむことができる。また、タラ、サメなどの肝油を精製し、料理にかけたり汁物にたらして調味する。

說，從樹木拔下樹皮後，將白樺樹或松樹樹皮彎曲，可製作成勺子或籠子、船。在樺太或北海道東部，則是將樹皮運用於房屋屋頂或牆壁。其他運用的實例則是將樹木內皮部分仔細撕開後加工成衣線，再用織布機作成attus（樹皮布）的布料。attus不僅自家消費，和人漁業勞動者也會購買穿用，還會當為伴手禮帶回本州，甚至納入歌舞伎的表演服裝。

漁撈，除了離岸捕魚外，也在沿岸進行捕魚，也常常捕撈溯流而上的魚。魚肉，透過不同的加工或調理方法，可以享受到各種口感或風味。另外，會精製鱈魚、鯊魚等魚類的肝油，淋在料理或滴在湯品裡加以調味。

魚皮は日用品の素材として広く用いられる。サケやイトウなど大型魚の皮は衣服や靴などに用いられる。エイの皮を鹿猟用の笛や胡弓に用いた例もある。

狩猟は陸獣と海獣、鳥類を対象とする。猟具としては弓、槍と銛、罠が用いられた。ヒグマや、キツネ、タヌキには自動発射式の仕掛け弓が使われ、銃が普及してからは仕掛け弓の原理を応用して銃を用いる罠も使われ



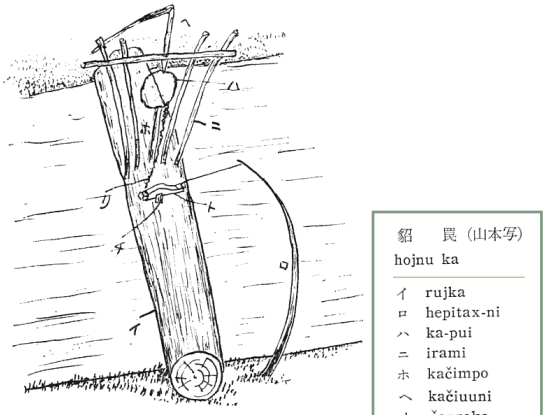
小動物用の罠
山本祐弘『樺太アイヌの住居と民具』より

イ　橋（動物の通り道になる木）
ロ　跳ね木（仕掛けが作動すると、この木の弾力で獲物は川に落とされる）
ハ　輪状にした糸（動物がかかると締まる）
ニ　動物の通り道を遮る木
ホ　輪の支柱
ヘ　輪の支柱
ト　トリガー、止め木（跳ね木が元に戻る力を支える部品）
チ　トリガーの支え
リ　中継ぎの糸

獵捕小型動物的陷阱
資料來源 取字山本祐弘《樺太愛努族的居住與民具》

イ　橋（當為動物通道的木橋）
ロ　彈木（機關作動後，彈木會以彈力將獵物打落河裡）
ハ　環狀繩圈（動物勾到後會被綁住）
ニ　阻擋動物通道的木條
ホ　繩圈支柱
ヘ　繩圈支柱
ト　觸發器、固定木條（支撐彈木保持原本彈力的零件）
チ　觸發器的支撐部
リ　連結繩

狩獵，則為陸獸與海獸、鳥類等為對象。做為獵具，有弓、槍與魚叉、陷阱。獵捕棕熊、狐狸、狸貓，使用自動發射型的機關弓，槍枝普及之後依機關弓原理，將槍枝應用於陷阱使用中。捕捉黑貂等小型動物時，則採用夾壓或束綁類的陷阱黑貂等動物因其毛皮為貴重



クマ、キツネ用の仕掛け弓
山本祐弘『樺太アイヌの住居と民具』より

イ　弓
ロ　弦
ニ　板機木
ホ　線環
ヘ　弓架木
ト　箭
チ　箭頭
リ　絆線

用於獵捕熊、狐狸的機關弓
資料來源 取自山本祐弘《樺太愛努族的居住與民具》

イ　弓
ロ　弦
ニ　板機木
ホ　線環
ヘ　弓架木
ト　箭
チ　箭頭
リ　絆線

た。クロテンなどの小動物には、挟んだり締めたりする罠が用いられた。クロテンなどは毛皮が重要な商品であることから、こうした罠は毛皮を傷つけずに捕える上でも最適であった。

おわりに

これらの生業による産物は、いずれも自家消費ばかりでなく、外部社会との交易における商品ともなった。外来の産物を獲得するため、生産を拡大しようとする志向も生まれた。一方、文学作品の中には過剰な採取を戒め、過少生産的な価値観を伝えようとするも見られる。◆

商品，採用上述陷阱可在不傷其毛皮下捕獲，可謂是最適當的狩獵方式。

結語

這些因生計而來的產物，皆不限於自家消費，也會當作為與外部社會交易時的商品。因此，為了取得外界的產品，也就產生出企圖擴大生產的心態。在另一方面，從文學作品中也看到有「告誡不要過度取用資源，傳承少量生產的價值觀」的意圖。◆

作者簡介｜プロフィル

北原次郎太 Mokottunas

1976年東京都で生まれ、埼玉県で育ち、関東在住のアイヌ民族団体、関東ウタリ会に所属し、アイヌ文化に触れながら育つ。北海学園大学で学士、千葉大学大学院で修士・博士号を取得。白老町の（一財）アイヌ民族博物館で学芸員として勤務したあと、２０１０年より北海道大学アイヌ・先住民研究センターに勤務。祭具の機能と形状や、神観念、シャマニズムなどを専門とする。他に、祖母の出身地である樺太（サハリン）西海岸の言語・文化を中心に、アイヌ民族の工芸、芸能、口承文芸、アイヌ語などを研究。アイヌ語や芸能、儀礼の分野で復興運動に参画し、次世代の育成にも取り組んでいる。著書に『アイヌの祭具　イナウの研究』（北海道大学図書刊行会、2014）、今石みぎわとの共著『花とイナウ―世界の中のアイヌ文化―』（北海道大学アイヌ・先住民研究センター、2015）、アイヌ語テキスト『中級アイヌ語　樺太』（アイヌ文化振興研究推進機構、2014）など。

北原次郎太 Mokottunas

1976年東京都出生，成長於埼玉縣。為關東在住的愛努民族團體、關東UTARI會成員從小接觸愛努文化長大。為北海道大學學士、於千葉大學研究所取得碩士、博士學位。曾任職於白老町的（一般財團法人）愛努民族博物館擔任館員。之後2010年起任職於北海道大學愛努・先住民研究中心。研究的專業領域為祭器功能與形狀、神觀、薩滿信仰等。其他則以祖母出身地樺大（庫頁島）西海岸的語言、文化為中心，進行愛努民族的工藝、藝能、口承文藝、愛努語等研究。參與愛努語、藝能、儀禮領域的復振運動，並致力於培養下一個世代。著作有《愛努族的祭器 inaw的研究》（北海道大學圖書刊行會，2014）、與金石Migiwa共著《花與inaw—世界之中的愛努文化—》（北海道大學愛努・先住民研究中心、2015）、愛努語講義《中級愛努語 樺太》（愛努文化復興研究推進機構、2014）等。

※UTARI為愛努語，語意「同胞」。